

CentreCOM AR300/AR300L

機能追加・バグフィクス情報

Release 1.6.0 PI3

0 このドキュメントについて

この度は、CentreCOM AR300/AR300Lをご購入いただきまことにありがとうございます。このドキュメントは、Release 1.6.0 PI3ファームウェアによって、1.6.0 PI2から改修、追加された機能について説明したものです。リリースノート(J613-M0270-00 Rev.B)と合わせてお読みください。

1 コールプライオリティ / コールバンピング

コールプライオリティ機能とコールバンピング機能(Call Bumping)が追加されました。これは、ISDNインターフェース上のBチャンネルが2本とも使用されているときに、外部からの着呼要求または外部への発呼要求が発生した場合、コール(呼)ごとに設定された優先度(PRIORITY)に基づいて、すでに確立されている通信を切断し、後から発生した着呼/発呼要求を優先させる機能です。ただし、着信についてこの機能をご利用になるためには、ご契約のISDN回線で「通信中着信通知」の申し込みが必要です。

データ通信(data call)の優先度は、「ADD/SET ISDN CALL」コマンドのPRIORITYパラメータで設定します。PRIORITYの範囲は0～99で、値が大きいほど優先度が高くなります。データ通信のデフォルトの優先度は50です。

 リリースノート・リファレンス編「ADD/SET ISDN CALL」p.88～、p.92～

アナログコール(voice call)の優先度は、「ADD PBX EXTENSION OVERRIDE」、「ADD PBX GROUP OVERRIDE」、「ADD PBX OVERRIDE」コマンドのPRIORITYパラメータで設定します(PRIORITYパラメータを設定するためには、必ずOVERRIDEパラメータを設定しなければなりません。OVERRIDEパラメータは、電話をかけることを許す電話番号を指定するものです)。PRIORITYパラメータは、HIGHまたはNORMALの2種類の値を指定することができます。


 Command Reference(CD-ROM)「ADD PBX EXTENSION」p.17-23(通しページではp.712)～、「ADD PBX GROUP」p.17-25(p.714)～、「ADD PBX OVERRIDE」p.17-26(p.715)～

表 1.1

すでに確立しているデータ通信の優先度(PRIORITY)の範囲	すでに確立しているデータ通信がバンピングされる条件
0-19	アナログコールの発呼/着呼、またはすでに確立しているデータ通信よりも優先度の高いデータ通信の発呼/着呼の要求が発生したとき
20-39	アナログコールの発呼/着呼、またはすでに確立しているデータ通信よりも優先度の高いデータ通信の発呼/着呼の要求が発生したとき
40-59	優先度がHIGHのアナログコールの発呼/着呼、またはすでに確立しているデータ通信よりも優先度の高いデータ通信の発呼/着呼の要求が発生したとき
60-99	優先度がHIGHのアナログコールの発呼/着呼、またはすでに確立しているデータ通信よりも優先度の高いデータ通信の発呼/着呼の要求が発生したとき

- 優先度HIGHのアナログコールはつねに最優先されるため、あとから他の発呼/着呼要求が発生しても切断されることはありません。
- 優先度NORMALのアナログコールがコールバンピングによって切断されるのは、優先度HIGHのアナログコール要求が発生したときだけです。

設定例

コールバンピングの設定例を示します(別冊子・取扱説明書「6.2 LAN型ダイヤルアップ接続のための設定方法」(p.3-2)にコールバンピングの設定を追加したスクリプト)。この例では、Bチャンネルが2本とも使用されているとき、通常の電話の発呼/着呼は許可せず、緊急時の電話番号「110」への発呼は許可しています。

```
PURGE IP
ENABLE IP
PURGE PPP
ADD ISDN CALL=ISP PREC=OUT NUMBER=0312345678
    データ通信の優先度は「50」(デフォルト)に設定されています。
ADD PBX OVERRIDE=0110 PRIORITY=HIGH
    「OVERRIDE=」の先頭の「0」はゼロ発信、2桁目以降が電話番号を示します。データ通信の優先度「50」をバンピングするには「HIGH」の優先度が必要です。
CREATE PPP=0 OVER=ISDN-ISP IDLE=ON
ADD PPP=0 OVER=ISDN-ISP TYPE=DEMAND
SET PPP=0 USER=LgnNam PASSWORD=Password
ADD IP INT=ETH0 IP=192.168.67.129 MASK=255.255.255.240
ADD IP INT=PPP0 IP=0.0.0.0
ADD IP ROUTE=0.0.0.0 MASK=0.0.0.0 INT=PPP0 NEXTHOP=0.0.0.0
CREATE CONFIG=ISP.cfg
SET CONFIG=ISP.cfg
```

2 HLC/LLC 情報要素の付加

アナログコールを発呼するときにおけるQ.931手順のセットアップメッセージにHLC/LLC情報要素を付加する機能が追加されました。これにより、HLC/LLC情報要素を要求するように設定されたTAがAR300からのアナログコールの接続を拒否してしまうという障害が解決されます。この機能追加に伴い、「ADD/SET PBX EXTENSION」コマンドに「HLC」パラメータが追加されました。

 Command Reference(CD-ROM)「SET PBX EXTENSION」p.17-25(通しページでは p.714)~

```
SET PBX EXTENSION=extension-number HLC=[ FAX | TELEPHONE | DEFAULT ]
    [AUTODIAL={phone-number|NONE}] [COPY=extension-number]
    [DIVERT={NOREPLY|BUSY|IMMEDIATE|NOANSWER|NONE}] [GROUP=group-name]
    [NAME=extension-name] [NUMACCEPT={matching-number|ALL|NOTPRESENT|OFF}]
    [NUMBER=extension-number] [PORT={pbx-interface|NONE}] [REBOUND={1..30|NONE}]
    [SUPPRESS={1..30|NONE}] [SUBACCEPT={matching-subaddr|ALL|NOTPRESENT|OFF}]
    [TRANSFER=1..30]
```

接続先のTAがHLC/LLC情報要素を要求する場合、HLCパラメータを設定してください。このパラメータには次の値を指定することができます。

- DEFAULTを指定すると、HLC情報要素として何も付加されません。LLC情報要素として「音声」が付加されます。コマンド行にHLCパラメータを記述しなかった場合、HLC=DEFAULTが指定されたとみなされます。
- FAXを指定すると、HLC情報要素として「G2/G3ファクス」の情報が付加されます。LLC情報要素として「3.1KHzオーディオ」が付加されます。
- TELEPHONEを指定すると、HLC情報要素として「電話」の情報が付加されます。LLC情報要素として「音声」が付加されます。

コマンド例

次のコマンド例では、アナログポート1(コマンドの指定では「0」)からの発呼の場合、HLC情報要素として「G2/G3ファクス」、LLC情報要素として「3.1KHzオーディオ」が付加されます。

```
SET PBX EXTENSION=0 HLC=FAX
```

3 バグフィクス

- 「CREATE CONFIG」コマンドによって保存された設定ファイル(.CFG)に、「ENABLE TRIGGER」行が保存されないバグを改修いたしました(リリースノート「9.2 「ENABLE TRIGGER」コマンドに関する障害」(p.17)に記載されていたバグが改修されました)。Release 1.6.0 PI3 では「ENABLE TRIGGER」行が正しく保存されます。
- WAN回線(アンナンバードリンク)を越える Appletalk ping が正常に動作しないバグを改修しました。
- 2回目以降の PPP CHAP 認証が失敗してしまうことにより、PPP 接続が10分30秒ごとに切断されてしまうバグを改修しました。
- フレームリレーで多対多接続をしているネットワークで RIP を使用している場合などにおいて、リンクが切れてしまったとき、切断されたリンクの先のネットワークと通信しようとするルータがハングアップしてしまうというバグを改修しました。
- コンソールポートに多量のデータが出力されると、例えば多量のデバッグ出力を有効にした場合などにルータがハングアップしてしまうというバグを改修しました。
- 「SHOW SYS」コマンドの出力において、「Patch Installed:」項目が正しい内容を表示しないというバグを改修しました。
- 「SHOW LOG」コマンドの出力において、ISDN の発呼 / 着呼に関するログの ISDN B チャンネルの表示内容が正しくなかったバグを改修しました。